

1. 略歴

- 1987年3月 東京大学文学部第1類哲学専修課程卒業
1990年3月 東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻修士課程修了
1990年4月 同 博士課程進学 (1994年9月 退学)
1991年10月 ケンブリッジ大学大学院古典学部 Ph.D.コース入学
1995年10月 同大にて Ph.D.取得
1996年10月 九州大学文学部講師 (哲学・哲学史)
1998年4月 九州大学文学部、大学院人文科学研究科助教授 (哲学・哲学史)
2002年4月 慶應義塾大学文学部助教授 (哲学)
2006年3月 オランダ・ユトレヒト大学訪問研究員 (慶應義塾大学塾派遣留学: 2007年9月まで)
2007年4月 慶應義塾大学文学部准教授 (哲学)
2008年4月 慶應義塾大学文学部教授 (哲学)
2016年4月 東京大学大学院人文社会系研究科 教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 著書

The Unity of Plato's Sophist -Between the Sophist and the Philosopher-, the Cambridge Classical Studies, Cambridge University Press, 1999.

『ソフィストと哲学者の間 —プラトン『ソフィスト』を読む—』、名古屋大学出版会、2002年2月。

『プラトン —哲学者とは何か—』、NHK出版、2002年11月。

『哲学者の誕生 —ソクラテスをめぐる人々—』、ちくま新書、2005年8月。

『ソフィストとは誰か?』、人文書院、2006年9月 (2007年度サントリー学芸賞受賞)；新版、ちくま学芸文庫、2015年2月。

『プラトン 理想国の現在』、慶應義塾大学出版会、2012年7月 (2012年度義塾賞受賞)。

『NHK 100分 de 名著 プラトン『饗宴』』、NHK出版、2013年7月。

『プラトンとの哲学 —対話篇をよむ—』、岩波新書、2015年7月。

(2) 編著

『空間へのパースペクティヴ』納富信留・溝口孝司編、九州大学出版会、1999年4月。

『精神史における言語の創造力と多様性』納富信留・岩波敦子編、慶應義塾大学出版会、2008年3月。

Dialogues on Plato's Politeia (Republic): Selected Papers from the Ninth Symposium Platonicum, Noburu Notomi and Luc Brisson (eds.), Academia Verlag, 2013.

『内在と超越の関 —加藤信朗米寿記念哲学論文集—』土橋茂樹・納富信留・栗原裕次・金澤修編、知泉書館、2015年7月。

『テキストとは何か —編集文献学入門—』明星聖子・納富信留編、慶應義塾大学出版会、2015年10月。

(3) 翻訳・解説

プラトン『ソクラテスの弁明』訳・解説、光文社古典新訳文庫、2012年9月。

『ソフィスト的論駁について』訳・解説、『アリストテレス全集 第3巻』、岩波書店、2014年7月。

(4) 論文

“The Root of the Falsehood Problem—Plato's *Sophist* 236D-241B—”, 『論集』9、東京大学文学部哲学研究室、1991年2月、1-12頁。

「自己を制作する言葉 —プラトン言語論序説—」、『言語と現実』、哲学会編哲学雑誌 106/778、有斐閣、1991年10月、39-58頁。

「誤謬の論理学の成立 —アリストテレス『ソフィスト的論駁論』の射程—」『論集』12、東京大学文学部哲学研究室、1994年3月、101-116頁。

“The Appearances of the Sophist”, Ph.D. thesis, University of Cambridge, April 1995.

「ものの原初的な現れについて —プラトン『ティマイオス』篇の現象論—」、『哲学論文集』33、九州大学哲学会、1997年9月、1-26頁。

- 「クリティアス —プラトン政治哲学の原点—」、『西洋古典学研究』46、日本西洋古典学会、岩波書店、1998年3月、44-55頁。
- “On the Primitive Appearance of the Primary Bodies –Plato’s Theory of Appearance in the *Timaeus*–”, *Bulletin of the Faculty of Letters, Kyushu University* 23, March 1998, pp. 13-31.
- 「ディアレクティケーの理論と実践 —アリストテレス『トピカ』第八巻におけるエンドクサと真理—」、『哲学年報』57、九州大学文学部、1998年3月、149-176頁。
- 「哲学者とその影」、哲学会編哲学雑誌 113/785『ギリシア・中世哲学研究の現在』、有斐閣、1998年10月、74-93頁。
- 「大学の再生と哲学の使命」第4回読売論壇新人賞・佳作、『第4回読売論壇新人賞入選論文集’98』、読売新聞社、1999年2月、103-124頁。
- 「自己了解としての風土 —和辻風土論の批判的展開—」、『哲学年報』58、九州大学文学部、1999年3月、35-61頁。
- 「ディアレクティケーをめぐる一考察」、『西日本哲学会年報』7、西日本哲学会、1999年10月、17-31頁。
- 「哲学は何でないかについての予備考察 —プラトン『恋する者たち』の哲学的可能性—」、『哲学年報』59、九州大学文学部、2000年3月、49-78頁。
- “Critias and the Origin of Plato’s Political Philosophy”, Plato: Euthydemus, Lysis, Charmides, *Proceedings of the V.Symposium Platonicum*, T. M. Robinson & Luc Brisson (eds.), Academia Verlag, 2000, pp. 237-250.
- “Plato in Japan: Past, Present and Future”, *Plato 1*, Internet Journal of the International Plato Society, Christopher Gill (ed.), <http://gramata.univ-paris1.fr/Plato/article15.html>, 2001.
- 「ある」と「ない」の対の困難 —プラトン『ソフィスト』篇中央部への接近—」、『哲学年報』60、九州大学大学院人文科学研究院、2001年3月、65-90頁。
- 『古代ギリシアにおける“哲学”の成立の研究 —ソクラテス以前哲学者を中心に—』、平成11~12年度科学研究費補助金（奨励研究（A））研究成果報告書（研究代表者：納富信留）、2001年3月、1-19頁。
- “How Xenophanes Speaks: A New Approach to Fr. 34”, *Greek Philosophy and Epistemology I*, K. Boudouris (ed.), Ionia Publications, 2001, pp. 131-140.
- 「アルファベットと西洋文明の起源」、『文字をよむ』池田紘一・今西祐一郎編、2002年3月、161-174頁。
- 「哲学的風景論の可能性」、『風景の哲学』安彦一恵・佐藤康邦編、ナカニシヤ出版、2002年10月、81-101頁。
- 「ソクラテスの不知 —「無知の知」を退けて—」、『思想』948、岩波書店、2003年4月、37-57頁。
- 「プラトン『国家』篇中心巻への接近 —問題提起と論点素描—」、『慶応義塾大学日吉紀要・人文科学』18、慶応義塾大学、2003年5月、1-27頁。
- 「ロゴスと他者 —哲学成立の緊張—」、『ギリシア・ローマ世界における他者』地中海文化を語る会編、彩流社、2003年9月、161-202頁。
- 「ソクラテスの記憶 —「対話篇」による哲学のスタイル—」、哲学会編哲学雑誌 118/790『記憶』、2003年9月、1-23頁。
- “Socratic Dialogue and Platonic Dialectic: How the Soul Knows in the *Republic*”, *Internet Plato Journal: Plato 4*, The International Plato Society, <http://gramata.univ-paris1.fr/Plato/article48.html>, 2004, pp. 1-7 ; 印刷版、『西洋古典学研究』22、韓国西洋古典學會、2004年、135-144頁。
- 「限定と無限 —プラトン哲学における存在と生成—」、『連続をめぐる哲学 流れ・瞬間・同一性』田山令史・斎藤慶典編、ミネルヴァ書房、2004年3月、125-156頁。
- 「プラトン」、『東洋大学哲学講座2 哲学を使いこなす』東洋大学哲学科編、知泉書館、2004年6月、3-32頁。
- “Images of Socrates in Japan: A Reflection on the Socratic Tradition”, *Greek Philosophy in the New Millenium, Essays in Honour of Thomas M. Robinson*, Livio Rossetti (ed.), Academia Verlag, 2004, pp. 175-186.
- “Ethical Examination in Context: The Criticism of Critias in Plato’s *Charmides*”, *Plato Ethicus: Philosophy is Life*, Marizio Migliori and Linda M. Napolitano Valditara (eds.), Academia Verlag, 2004, pp. 245-254.
- 「魂にとって“知る”とは何か?」、『哲学の探求』32、2004年度 哲学若手研究者フォーラム論文集、2005年5月、17-28頁。
- 「ソフィストの挑戦 —ゴルギアス『ない』について』の反哲学—」、『西洋精神史における言語と言語観 —継承と創造』飯田隆編、慶応義塾大学言語文化研究所、慶応義塾大学出版会、2006年3月、151-190頁。
- 「プラトン『国家』の対話設定年代について」桜井万里子・納富信留共著、『古典古代史の近年の動向に対応したギリシア・ローマ思想史ならびに文学史の書きかえ』、平成14~17年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書（研究代表者：逸身喜一郎）、2006年3月、11-58頁。

- 「プラトン『国家』の新しい校訂版について—S. R. Slings, *Platonis Rempublicam*, OCT—」(付、資料: プラトン『国家』第一巻のテキストについて—Slings 新校訂と旧校訂との異同—)、『フィロロギカ—古典文献学のために』1、フィロロギカ編集委員会、2006年5月、99-111、113-119頁。
- “Plato’s Metaphysics and Dialectic”, *A Companion to Ancient Philosophy* (Blackwell Companions to Philosophy), Mary Louise Gill and Pierre Pellegrin (eds.), Blackwell, 2006, pp. 192-211.
- 「他者との対話としての哲学」、『他者のロゴスとパトス』三井善止編、玉川大学出版部、2006年10月、39-64頁。
- 「哲学者となること—栗原裕次「記憶と対話」への応答」、『ペディアラヴィウム』60、ペディアラヴィウム会、2006年12月、86-95頁。
- 「書かれた行為と思想: 学問のインターフェイス アルキダマス弁論術からの考察」、『岐路に立つ人文学』大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」研究報告書2004-2006、2007年1月、83-117頁。
- “Metaphysics as the Awakening of our Souls: An ethical reading of Plato’s *Phaedo*”, *Corners of the Mind: Classical traditions, East and West*, Centre for Integrated Research on the Mind, Keio University, March 2007, pp. 109-121.
- 「哲学の成立—古代ギリシアから現代日本に向けて—」、日本哲学会編『哲学』58、法政大学出版局、2007年4月、25-43頁。
- “Plato’s Critique of Gorgias: Power, the Other, and Truth”, *Gorgias-Menon: Selected Papers from the Seventh Symposium Platonicum*, Michael Erler & Luc Brisson (eds.), Academia Verlag, 2007, pp. 57-61.
- 「プロタゴラス伝註解—古代哲学資料研究序説—」、『フィロロギカ—古典文献学のために』2、古典文献学研究会、2007年5月、15-30頁。
- “La metafisica come risveglio dell’anima: Una lettura etica del Fedone di Platone”, *Interiorita e anima: La psyche in Platone*, Maurizio Migliori, Linda Napolitano Valditara & Arianna Fermani (eds.), Vita e Pensiero, 2007, pp. 201-210.
- “Plato against Parmenides: *Sophist* 236D-242B”, *Reading Ancient Texts, Volume I: Presocratics and Plato, Essays in Honour of Denis O’Brien*, Suzanne Stern-Gillet & Kevin Corrigan (eds.), Brill, 2007, pp. 167-187.
- “Plato on What is Not”, *Maieusis: Essays in Ancient Philosophy in Honour of Myles Burnyeat*, Dominic Scott (ed.), Oxford University Press, 2007, pp. 254-275.
- 「ソフィスト思潮」、『哲学の歴史1 哲学誕生【古代I】始まりとしてのギリシア』内山勝利編、中央公論新社、2008年2月、245-301頁。
- 「プロタゴラス『神々について』断片と伝承」、『フィロロギカ—古典文献学のために』3、古典文献学研究会、2008年5月、24-47頁。
- “Lindagine etica nel suo contesto. La critica a Crizia nel Carmide di Platone”, *Plato Ethicus: La filosofia e vita*, Maurizio Migliori & Linda Napolitano Valditara (eds.), Morcelliana, 2008, pp. 259-270.
- 「知のスタイルをめぐる葛藤と競演」、『哲学の歴史<別巻> 哲学と哲学史』、中央公論新社、2008年8月、136-142頁。
- 「知るということ—不知と懐疑からの考察—」、『西日本哲学年報』16、西日本哲学会編、2008年10月、147-163頁。
- 「知の創発性—古代ギリシア哲学からの挑戦—」、『岩波講座哲学04 知識/情報の哲学』中岡成文編、岩波書店、2008年10月、77-97頁。
- “The Birth of the Philosopher: People around Socrates”, *Socratica 2005: Studi sulla letteratura socratica antica*, Alessandro Stavru & Livio Rossetti (eds.), Levante editori, 2008, pp. 355-370.
- 「「哲学」の普遍性—古代ギリシアと現代日本の対話—」、『哲学の現在 第2回日中哲学フォーラム論文集』、日本哲学会国際交流WG編、2009年9月、55-62頁。
- 「書き物は哲学をどう創り出したのか?」、『西洋古典学研究』58、日本西洋古典学会、岩波書店、2010年3月、87-94頁。
- 「アリストファネスのプロディオス—喜劇における思想の揶揄への覚え書—」、『西洋古典学の明日へ—逸身喜一郎教授退職記念論文集—』、大芝芳弘・小池登編、知泉書館、2010年3月、191-200頁。
- “The questions asked in the *Philebus*”, *Plato’s Philebus: Selected Papers from the Eighth Symposium Platonicum*, John Dillon & Luc Brisson (eds.), Academia Verlag, 2010, pp. 74-79.
- “The nature and possibility of the best city: Plato’s *Republic* in its historical contexts”, *Plato and the City*, Gabriele Cornelli & Francisco Lisi (eds.), Academia Verlag, 2010, pp. 113-123.
- “Glaucón’s Challenge”, *Philosophy and Dialogue, Studies on Plato’s Dialogues, Vol. II*, Antoni Bosch-Veciana & Josep Monserrat Molas (eds.), Barceonesa d’Editions, 2010, pp. 35-50.

- “Socrates versus Sophists: Plato’s Invention?”, *Socratica 2008, Studies in Ancient Socratic Literature*, eds. Livio Rossetti & Alessandro Stavru, Levante Editori, 2010, pp. 71-88.
- “Plato’s *Politeia* in Modern Japan”, International Plato Society, *IX Symposium Platonicum, Plato’s Politeia, Proceedings Vol. I*, International Plato Society, Keio University, August 2010, pp. x-xiii.
- “Prodicus in Aristophanes”, *Il Quinto Secolo: Studi di filosofia antica in onore di Livio Rossetti*, S. Giombini e F. Marcacci (eds.), Aguaplano, 2010, pp. 655-663.
- 「古代ギリシアのオイコノモコス —異他性と共同性の緊張—」、『異文化経営研究』7、異文化経営学会、2010年12月、1-13頁。
- 「近代日本におけるプラトン『ポリテイア』の受容（上）—明治から大正へ—」、『思想』1042、岩波書店、2011年2月号、64-93頁。
- “Image-Making in *Republic X* and the *Sophist*: Plato’s criticism of the poet and the sophist”, *Plato and the Poets*, Mnemosyne Supplements 328, Pierre Destrée & Fritz-Gregor Herrmann (eds.), Brill, 2011, pp. 299-326.
- 「『ポリテイア』とは何か?」、『理想』686「特集：プラトンの「国家」論」、理想社、2011年3月号、2-13頁。
- 「近代日本におけるプラトン『ポリテイア』の受容（下）—戦前から戦後へ—」、『思想』1043、岩波書店、2011年3月号、47-75頁。
- 「恋（エロース）する人間 ～プラトン哲学から恋愛の本質を考えよう～」、『文学部は考える1 恋愛を考える』慶應義塾大学文学部叢書、慶應義塾大学出版会、2011年3月、9-25、43-48頁。
- 「プラトン『ポリテイア』の現代的意義」、『哲学』127「慶應義塾150周年記念論文集」、慶應義塾大学・三田哲学会、2011年3月、121-147頁；市販版、三田哲学会編、慶應義塾大学出版会、2011年4月、121-147頁。
- 「プラトン『ポリテイア』IX. 592a-b 再考」、『フィロロギカ —古典文献学のために』6、古典文献学研究会、2011年5月、1-12頁。
- “Where is the Philosopher?: A single project of the *Sophist* and the *Statesman*”, *Formal Structures in Plato’s Dialogues: Theaetetus, Sophist and Statesman*, Josep Monserrat-Moles & Francisco Lisi (eds.), Academia Verlag, 2011, pp. 216-224.
- 「パルメニデス」、『西洋哲学史I 「ある」の衝撃からはじまる』（選書メチエ）、神崎繁・熊野純彦・鈴木泉編、講談社、2011年10月、35-90頁。
- “Dialectic as *Ars Combinatoria*: Plato’s Notion of Philosophy in the *Sophist*”, *Plato’s Sophist: Proceedings of the Seventh Symposium Platonicum Pragense*, Aleš Havlíček & Filip Karfik (eds.), OIKOYMENH, 2011, pp. 146-155.
- “Metaphysics as the Awakening of Our Souls: An ethical reading of Plato’s *Phaedō*”, *Inner Life and Soul: Psyche in Plato*, *Lecturae Platonis 7*, Maurizio Migliori, Linda M. Napolitano Valditara and A. Fermani (eds.), Academia Verlag, 2011, pp. 185-193.
- “The Art of *Logos* in Ancient Greece”, *Logic and Sensibility*, Shigeru Watanabe (ed.), Centre for Advanced Research on Logic and Sensibility, Keio University Press, February 2012, pp. 211-221.
- 「結合術 *ars combinatoria* としての対話法 —プラトン『ソフィスト』篇における哲学理念—」、『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』43、慶應義塾大学言語文化研究所、2012年3月、101-115頁。
- 「プラトン『饗宴』178b-cについて」、『フィロロギカ —古典文献学のために』7、古典文献学研究会、2012年5月、23-41頁。
- “Gorgias’ Use of Logic and Rhetoric”, *Papers on Rhetoric XI*, Università degli studi di Bologna, Dipartimento di Filologia Classica e Italianistica, Centro di studi Retorici e Grammaticali, 2012, pp. 190-199.
- “Contemporary Meaning of Reading Plato in Japan and Asia”, *Études Platoniciennes: Platon aujourd’hui 9*, Les Belles Lettres, 2012, pp. 161-169.
- 「古代ギリシアと向き合う —最新の歴史・哲学史研究の成果から—」、『at プラス』15「特集：『哲学の起源』を読む」、太田出版、2013年2月、62-74頁。
- 「プラトンにおける時間と永遠 —『ティマイオス』37C-38C—」、『新プラトン主義研究』12、新プラトン主義協会、2013年3月、5-12頁。
- 「『理想』とは何か —プラトンと近代日本—」、『国士館哲学』17、国士館大学哲学会、2013年3月、1-21頁。
- 「プラトン『パイドン』62Aの“ἐστὺν ὅτε καὶ οἴσ’」、『フィロロギカ —古典文献学のために』8、フィロロギカ編集委員会、2013年5月、47-53頁。
- “A Protagonist of the Sophistic Movement? Protagoras in Historiography”, *Protagoras of Abdera: The Man, His Measure*, Johannes M. van Ophuijsen, Marlein van Raalte and Peter Stork (eds.), Brill, 2013, pp. 11-36.

- “Socrates in the *Phaedo*”, *The Platonic Art of Philosophy*, George Boys-Stones, Dimitri El Murr and Christopher Gill (eds.), Cambridge University Press, 2013, pp. 51-69.
- “Citations in Plato, *Symposium 178B-C*”, *Studi Classici e Orientali 59*, Pisa University Press, 2013, pp. 55-69.
- “The Sophists”, *The Routledge Companion to Ancient Philosophy*, Frisbee Sheffield and James Warren (eds.), Routledge, 2014, pp. 94-110.
- 「「ソフィスト思潮」とは何か?」、『ギリシャ哲学セミナー論集』11、ギリシャ哲学セミナー、<http://greek-philosophy.org/ja/>、2014年3月、41-51頁；印刷冊子版『ギリシャ哲学セミナー論集』XI/XII、2015年3月、41-51頁。
- 「【展開α】プラトン哲学の徹底と逸脱、『新プラトン主義を学ぶ人のために』水地宗明・山口義久・堀江聡編、世界思想社、2014年5月、19-23頁。
- 「問答法、試問術とソクラテス —アリストテレス『ソフィスト的論駁について』34.183a37-b8—」、『フィロロギカ』9、古典文献学研究会、2014年5月、31-38頁。
- 「井筒俊彦とプロティノス」、『道の手帖：井筒俊彦 —言語の根源と哲学の発生』、河出書房新社、2014年6月、172-179頁。
- 「プラトン「アカデメイア」の理念から考える」、『早稲田大学政治経済学部・教養諸学研究 特別号』、早稲田大学政治経済学部教養諸学研究会、2014年7月、60-75頁。
- 「古代ギリシア・ローマにおける「自由学芸」の教育」、『中世哲学研究』56、中世哲学会、2014年9月、70-79頁。
- 「イデアの永遠と同一 —プラトン『饗宴』の「言葉」—」、『西日本哲学会年報』22、西日本哲学会、2014年10月、1-16頁。
- 「プラトンの近代校訂本 —古典文献学への招待」、『世界を読み解く一冊の本』松田隆美・徳永聡子編、慶應義塾大学出版会、2014年10月、3-17頁。
- 「ギリシア神秘哲学の可能性 —井筒俊彦『神秘哲学』のプラトン像—」、『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』46、慶應義塾大学言語文化研究所、2015年3月、7-29頁。
- 「相対主義再考 —古代哲学と現代との対話』、『生の倫理と世界の論理』座小田豊・栗原隆編、東北大学出版会、2015年3月、47-70頁。
- 「プラトン『ポリテイア』V. 473c-e 再検討」、『フィロロギカ —古典文献学のために』X、古典文献学研究会、2015年5月、64-76頁。
- 「「理想」を語る哲学」、『ポストフクシマの哲学 —原発のない世界のために—』村上勝三・東洋大学国際哲学研究センター編、明石書房、2015年8月、222-251頁。
- 「イデアの超越 —魂の変容と現実の開示—」、『思想』1097、岩波書店、2015年9月号、9月、41-49頁。
- “The Platonic Idea of Ideal and its Recepton in East Asia”, *Selected Papers from the XXIII World Congress of Philosophy: Philosophy as Inquiry and Way of Life*, Konstantine Boudouris, Costas Dimitracopoulos and Evangelos Protopapadakis (eds.), Philosophy Documentation Center, Charlottesville Virginia, October 2015, pp. 137-147.

3. 主な社会活動

(1) 学会委員（主要なもの）

- International Plato Society [国際プラトン学会]・President（加藤信朗氏と共同：2007年8月～2010年8月）、Executive Committee member（アジア・アフリカ・オーストラリア地区代表、2001年7月～2007年8月；前会長、2010年8月～2013年7月）、Advisory Board（2013年7月～現在）
- 日本西洋古典学会・委員（2001年6月～現在）、常任委員（2007年6月～2013年6月）、編集委員（2010年12月～現在）
- 日本哲学会・評議員（2011年6月～現在）；理事（2011年6月～2013年6月、2015年5月～現在）
- 西日本哲学会・評議員（2012年11月～現在）